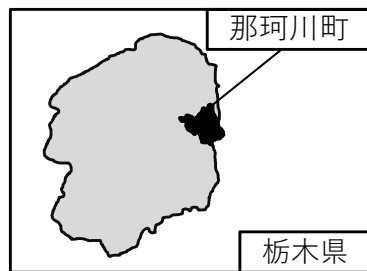


【工夫のポイント】

- 55集落を1協定に統合し、地域ぐるみの農地保全体制を構築。
- 協力団体と連携し、地域活性化に取り組んでいる。
- 棚田地域振興法に基づく、活動計画を策定し、認定を受けた。

【取組地域の概要】

●位置



●地域の概要

・栃木県東部に位置し、那珂川流域に広がる水田地帯である。

●主要作物

・水稻、ソバなど

面積 : 316ha (すべて田)

交付金額 : 4,274万円

〔 本体3,239万円
加算1,034万円〕

協定参加者 : 農業者618人

協力団体7団体

協定開始 : 令和2年

現状と課題

農地保全・地域活性化の人材確保が課題

- 良質な米の産地として誇りをもって水田を守ってきたが、条件不利に米価格の低迷が追い打ちをかけ、農業生産が縮小
⇒米のブランド化、生産性向上が必要
- 小規模な集落が多く、高齢化と人口減少により、各集落単位での農地保全が難しくなってきた
⇒広域的な農地保全体制、移住定住促進が必要
- 美しい田園風景を活かし、都市農村交流や集落機能強化に成功している集落もあり、その活動を広げていく必要がある。
⇒活性化を担う人材、連携団体の確保が必要



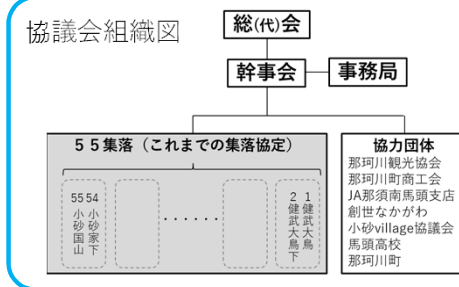
不整形な水田が多く生産性が低い

広域化と人材確保

- 55集落協定を統合して広域協定を締結し、広域加算を活用して専任事務員を設置
- GISシステムを導入して集落戦略の作成を進め、農地点検、担い手への農地集積を推進
- 棚田加算を活用して、協力団体と連携しながら棚田オーナー制度、農泊、米のブランド化を推進
- 生産性向上加算を活用して、ドローン等の省力化技術を導入し、農地保全オペレータ組織を設置
- 集落機能強化加算を活用し、外部人材を活用した保全活動を実施

中山間直接支払の取組内容

協議会組織図



農薬散布用ドローン及び法面用草刈機を導入

(取組のプロセス)

きっかけ

農業生産条件の条件不利性から、高齢化、担い手不足。

将来に向けて

- ☑新型コロナウイルス感染症に対応した実施方法の検討
 - ・ 棚田オーナー
 - ・ 農家民泊
 - ・ 集落機能強化
- ☑活動の核となる若手人材の確保、育成

Step 5 (R02~)

広域協定の設立と人材確保

- 協定を統合して**広域協定を締結、専任事務員を設置**
- 棚田地域振興活動計画の認定**を受け、町内の7つの協力団体と連携して地域活性化の取組開始
- GISシステムを導入して農地の状況を見える化し、集落戦略の検討、農地を引き受ける担い手との協議開始
- 省力化機械（ドローン等）の導入、農地保全オペレーター組織を設立し広域的に農地を維持、生産性向上を図る
- ブランド米研究会を発足、高付加価値化を図る

Step 1 (H12~)

中山間地域等直接支払制度の取組を開始

- 良質な米の産地として誇りをもって田を守ってきたが、条件不利に米価格の低迷が追い打ちをかけ、農業生産が縮小傾向に
- 町が制度の周知を図り、事業による共同活動（草刈り等）を開始



令和2年7月に指定棚田地域に指定

棚田への着目 (H14)

町内4カ所の棚田が「残したい栃木の棚田21」へ指定

・地域を訪れる人が増加し、地域の人が棚田に誇りをもった

各集落単位での活動が限界に達し、4期で取組終了したいとの意向が多数の集落からあがっていた

Step 4 (R01~)

第5期対策へ向けた体制検討

- 協議会を中心に会合を重ね、地域の意向と課題を整理
<課題>
 - ・ 地域活性化を担う人材不足
 - ・ 農業の担い手が不在
 - ・ 高齢化による事務負担増大
 - ・ 共同活動の人手不足
- ⇒町と相談の上、体制整備を検討。町内の各団体へも声掛け
- <地域の意向⇒**水稻を中心とした営農で生活を維持できる**>
そのために、
 - ①生産性向上（省力化技術の導入）
 - ②米価格の向上（ブランド化）
 - ③移住定住の促進（交流人口増大）が必要

Step 2 (H22~)

協議会の設立

- 一層の人口減少と高齢化が進み、共同取組活動の重要性への認識が高まる
- 増加する鳥獣被害に対し、地域協議会を設立し、被害防止柵の設置等の共同取組活動を開始

協議会として

- ・ 先進地視察、省力化機械の実演会
- ・ 獣害対策等への補助等を実施

Step 3 (H24~)

町内の小砂地区で棚田オーナー・農泊開始

- 小砂地区で、棚田オーナー・農家民泊を開始
- 美しい風景を活用し、芸術祭、トレイルランなどのイベントを多数開催
- ⇒昔ながらの農家の暮らしや農村の風景が、都市住民を呼ぶ魅力があることを認識

小砂地区の活動が「豊かなむらづくり全国表彰事業」で農林水産大臣賞を受賞（R01）

- ・ 棚田オーナーや農泊に興味をもつ農業者の増加
- ・ 旅行業者から、受け入れ地域、農家の増加要望